

京都市はぐくみ推進審議会

平成30年度第2回「子どもの健全育成推進部会」「教育環境づくり部会」「支援を必要とする子どものための部会」
次 第

平成31年2月25日(月)
午後6時30分から
職員会館かもがわ 第1多目的室

<議題>

子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査等の調査実施状況について

資料1 子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の調査実施状況について

資料2 放課後の過ごし方に関する調査(小学校)について

資料3 放課後の過ごし方に関する調査(総合支援学校)について

参考資料1 放課後の過ごし方に関する調査(小学校)【結果報告書(案)】

参考資料2 放課後の過ごし方に関する調査(総合支援学校)【結果報告書(案)】

京都市はぐくみ推進審議会
「子どもの健全育成推進部会」「教育環境づくり部会」「支援を必要とする子どものための部会」
共同部会 委員名簿

別添

<委員> 19名

(敬称略・50音順)

(◎：部会長 ☆：特別委員)

		氏名	団体・役職名等	所属する部会		
				子どもの健全育成推進部会	教育環境づくり部会	支援を必要とする子どものための部会
1		雨宮 万里子	京都市少年補導委員会	○		
2		石塚 かおる	京都児童養護施設長会 会長			○
3		伊豆田 千加	特定非営利活動法人子育ては親育て・みのりのもり劇場 理事長		☆	
4		井筒 隆夫	京都市民生児童委員連盟 理事		☆	☆
5		岡 美智子	京都障害児者親の会協議会 副会長	○		○
6		大澤 彰久	京都市PTA連絡協議会 会長		○	
7		小谷 裕実	京都教育大学 教授			○
8		渋谷 千鶴	京都知的障害者福祉施設協議会 児童発達支援部会長			☆
9		杉原 颯太	市民公募委員		○	
10		芹澤 出	京都母子生活支援施設協議会 会長			☆
11		鶴丸 富子	京都市里親会 会長			☆
12		徳岡 博巳	大谷大学短期大学部 教授			◎
13		中川 佐和子	市民公募委員	○	○	
14		長澤 敦士	市民公募委員			○
15	部会長	初田 幸隆	京都教育大学 教授	◎	◎	
16		藤本 明弘	公益社団法人京都府私立幼稚園連盟 副理事長		☆	
17		藤本 明美	特定非営利活動法人京都市子育てネットワーク 理事長	○		
18		細川 みゆき	社会福祉法人京都市社会福祉協議会児童館事業部 部長	☆		
19		山手 重信	公益社団法人京都市児童館学童連盟 会長	○		

子ども・若者に係る総合的な計画策定に向けた市民ニーズ調査・意識調査の調査実施状況について

平成32年度を始期とする「子ども・若者に係る総合的な計画（以下「新計画」という。）」を来年度に策定するに当たり、昨年9月から順次実施してきました市民ニーズ調査・意識調査（以下「ニーズ調査」という。）について、現時点の各調査の実施状況について御報告いたします。

1 実施結果（各調査の概要については裏面参照）

調査区分		調査対象者 (配布数)	有効回収数	有効回収率
①	子育て支援に関する市民ニーズ調査 (小学校入学前児童)	6,500 件	3,191 件	49.1%
②	子育て支援に関する市民ニーズ調査 (小学生児童)	6,500 件	3,202 件	49.3%
③	家族や家庭生活のあり方に関する意識調査	6,500 件	1,866 件	28.7%
④	ひとり親家庭に関する実態調査	5,000 件	1,272 件	25.4%
⑤	母子保健に関する意識調査	3,162 件	1,327 件	42.0%
⑥	青少年・若者に関する意識行動と思春 期保健に関する調査	6,500 件	1,393 件	21.4%
	うち 13 歳から 18 歳までの青少年・ 保護者	2,500 件	638 件	25.5%
⑦	放課後の過ごし方に関する調査 (小学校用)	31,696 件	14,218 件	44.9%
⑧	放課後の過ごし方に関する調査 (総合支援学校用)	1,133 件	474 件	41.8%

2 今後のスケジュール（予定）

各ニーズ調査の結果については、調査票を作成する際に調査審議を行った部会及び共同部会において、考察を行うとともに、現行計画（「未来こどもはぐくみプラン」、 「ユースアクションプラン」、 「貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」）の進捗状況も踏まえて意見聴取を行い、本年4月以降に公表を行う予定です。

《主なスケジュール》

平成31年2月以降

部会及び共同部会において意見聴取

同年3月中旬～下旬

全体会議で最終の意見聴取

事務局において調査結果の取りまとめ

同年4月以降

調査結果の公表

(参考)

(1) 子育て支援に関する市民ニーズ調査

対 象：市内在住の小学校入学前児童の保護者（6, 500件）

〃 小学生の保護者（6, 500件）

方 法：無作為抽出を行い、調査票を郵送

目 的：子育て支援施策に係る市民ニーズを把握し、「京都市子ども・子育て支援事業計画」策定をはじめ、今後の子育て支援施策の今後の方向性を検討する基礎資料とする。

(2) 家族や家庭生活のあり方に関する意識調査

対 象：市内在住の18歳から49歳までの市民（6, 500件）

方 法：無作為抽出を行い、調査票を郵送

目 的：結婚、出産、働き方改革、真のワーク・ライフ・バランス等、広く家族や家庭生活に係る市民の意識を把握することを目的に調査を実施する。

(3) ひとり親家庭に関する実態調査

対 象：市内在住の母子世帯（3, 700件）

〃 父子世帯（1, 300件）

方 法：無作為抽出を行い、調査票を郵送

目 的：ひとり親家庭の、所得を含む世帯の状況や育児・教育の状況、離婚後の養育費や面会交流の状況などを調査するとともに、既存の福祉施策の認知状況や利用状況、潜在的なニーズ及び要望を把握し、主に「京都市ひとり親家庭自立促進計画」策定に係る基礎資料とする。

(4) 母子保健に関する意識調査

対 象：9月中に乳幼児健康診査（4か月児、8か月児、1歳6か月児、3歳児）を受診した児童の母親（約4, 000件）

方 法：乳幼児健康診査で来庁された際に調査票を手渡し、郵送で回収

目 的：乳幼児の子育てをしている母親を対象に調査をすることで、妊娠・出産・子育てを取り巻く状況や環境の変化を把握し、「京都市母子保健計画」策定に係る基礎資料とする。

(5) 青少年・若者に関する意識行動と思春期保健に関する調査

対 象：市内在住の13歳～18歳とその保護者（5, 000件（2, 500世帯））

〃 19歳～30歳（4, 000件）

方 法：無作為抽出を行い、調査票を郵送

目 的：13歳～30歳の青少年・若者（思春期を含む）の意識や生活状況について調査し、その把握を行うことで「京都市子ども・若者計画」や「京都市母子保健計画」の策定に係る基礎資料とする。

(6) 放課後の過ごし方に関する調査

対 象：市立小学校及び市立小中学校前期課程1年生、4年生、6年生の全ての児童の保護者（約31, 000件）

総合支援学校に通学する全児童・生徒の保護者（約1, 250件）

方 法：各学校を通じ調査票を配布し、郵送で回収

目 的：小学校児童の放課後における過ごし方を調査し、学童クラブ事業・放課後ほっと広場事業・放課後まなび教室（以下「学童クラブ事業等」という。）の利用実態や潜在的なニーズ、児童館事業の認知度を把握することにより、今後の各事業のあり方の検討材料とする。

また、総合支援学校に通う障害のある児童・生徒の放課後の過ごし方を調査し、就学児童のサービス利用における現状と課題、また放課後に必要とされるサービスの機能や役割について把握する。

京都市放課後の過ごし方に関する調査（小学校用）について

1 調査概要

(1) 目的

小学生の放課後の過ごし方の状況や、放課後に利用している事業へのご意見等をうかがい、今後の京都市における放課後児童施策の充実に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 実施状況

	調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率
放課後の過ごし方に関する調査（小学校用）	31,696 件	14,218 件	44.9%

2 主な調査項目

(1) 放課後の過ごし方の状況

- ア 同居している家族について
- イ 平日の放課後の時間を過ごす場所
- ウ 学校内の部活動や校庭開放、習い事や塾

(2) 京都市の学童クラブ事業

- ア 利用している京都市の学童クラブ事業に対する要望
- イ 京都市の学童クラブ事業を利用していない理由
- ウ 京都市の学童クラブ事業を退会した理由

(3) 放課後まなび教室

- ア 利用している（または利用予定の）放課後まなび教室への要望
- イ 放課後まなび教室を利用していない（または利用予定がない）理由

(4) 京都市の学童クラブ事業と放課後まなび教室

- ア 両方利用している理由
- イ 両方利用することにあたっての要望

(5) 児童館（学童クラブ事業以外での利用）

- ア 児童館活動（学童クラブ事業以外）の認知度
- イ 児童館（学童クラブ事業以外）を利用している理由
- ウ 児童館（学童クラブ事業以外）を利用していない理由

(6) 放課後等デイサービス

- ア 現在通っている放課後等デイサービス事業所を選んだ理由
- イ 現在通っている放課後等デイサービス事業所に対する要望

3 主な調査結果（案）

※ 以下のページ番号は、全て参考資料1の放課後の過ごし方に関する調査（小学校用）のページ番号を指します。

回答を学年別にみると、「1. 1年生」が35.7%と最も高く、次いで「2. 4年生」が32.1%、「3. 6年生」が30.8%となっています。（P.2）

(1) お子さまと保護者の方の現在の状況について

ア 同居している家族について

(P.2)問1-1, (P.3)問1-2, 問1-3, 問1-3×学年別)

同居している家族については、「2. 母」が98.5%と最も高く、次いで「1. 父」が89.1%、「7. 弟」が26.6%となっています。兄弟姉妹の人数は、すべての項目で「1. 1人」が最も高くなっています。

保護者の在宅状況については、「1. 父, 母のどちらかは家にいる」が52.9%と最も高く、次いで「3. 誰もいない」が27.9%、「4. その他」が10.8%となっています。

保護者の就労状況については、「1. 常勤（フルタイム）で就労している」が72.7%と最も高く、次いで「2. パートで就労している」が43.2%、「3. 就労していない」が16.7%となっています。また、学年が上がるほど、「2. パートで就労している」の割合が高くなり、「3. 就労していない」の割合が低くなる傾向がみられます。

イ 平日の放課後の時間を過ごす場所

(P.4)問2-1, (P.5)問2-1(1)×問1-3, (P.10)問2-2, (P.11)問2-2(2)×学年別)

『1. 毎日』は、「(1) 自宅」が31.7%と最も高く、次いで「(7) 京都市の学童クラブ事業」が11.0%となっています。「(6) 習い事や塾」に通っている頻度は、『3. 2～3日』が36.8%と最も高い割合を占めています。

保護者の就労状況別にみると、『就労していない』『就労したいができない』の区分では、他の区分に比べて、毎日を自宅で過ごす割合が高くなっています。

『(1) 自宅』において誰と過ごすかについては、「2. 母」が68.8%と最も高くなっています。『(2) 公園等の屋外』では、「7. 友人」が81.0%と最も高く、次いで「6. 弟, 妹」が15.4%、「2. 母」が14.8%となっています。学年が上がるほど、「友人」の割合が高くなる傾向がみられます。また、『1年生』では「母」「兄, 姉」「弟, 妹」の割合が他の区分と比べて特に高くなっています。

(P.6)問2-1(7)×学年別, (P.7)問2-1(7)×問1-2, 問2-1(7)×問1-3, (P.8)問2-1(7)×問2-1(8))

京都市の学童クラブ事業については、学年が上がるほど、「1. 毎日」の割合が低くなり、「5. 利用していない」の割合が高くなる傾向がみられます。

利用割合を家族の在宅状況別にみると、『誰もいない』では、「1. 毎日」の割合が他の区分に比べて高くなっています。

保護者の就労状況別にみると、『常勤（フルタイム）で就労している』『パートで就労している』では、「1. 毎日」の割合が他の区分に比べて高くなっています。

また、京都市の放課後まなび教室の利用頻度が上がるほど、京都市の学童クラブ事業を「利用していない」割合が低くなる傾向がみられます。

(P.8)問2-1(7)×問2-1(12), (P.9)問2-1(8)×学年別, 問2-1(9)×学年別)

放課後まなび教室を利用している割合は4年生が最も高くなっています。

京都市の学童クラブ事業と放課後まなび教室を両方利用している方につ

いては、京都市の学童クラブ事業を2～3日利用し、放課後等デイサービスも2～3日利用している割合が最も高くなっています。

児童館(学童クラブ事業以外)を利用している割合は、学年が上がるほど、「5. 利用していない」の割合が高くなる傾向がみられます。

ウ 学校内の部活動や校庭開放、習い事や塾

(P.5)問2-1(5)×学年別, (P.6)問2-1(6)×学年別, (P.11)問3, (P.12)問3×学年別)

学校内の部活動や校庭開放で過ごしている割合は、学年が上がるほど、「5. 利用していない」の割合が低くなり、それ以外の項目が高くなる傾向がみられます。

習い事や塾を利用している割合は、学年が上がるほど、「1. 毎日」「2. 4日」「3. 2～3日」の割合が高くなり、「4. 1日のみ」「5. 利用していない」の割合が低くなる傾向がみられます。

習い事や塾を利用している理由については、「2. 運動能力向上, 体力づくりのため」が43.1%と最も高く、次いで「1. 学習習慣を身に付ける, 学力向上のため」が42.4%, 「7. お子さまが希望したため」が37.0%となっています。学年別にみると、『1年生』『4年生』では「運動能力向上, 体力づくりのため」, 『6年生』では「学習習慣を身に付ける, 学力向上のため」の割合が最も高くなっています。

(2) 京都市の学童クラブ事業について

ア 利用している京都市の学童クラブ事業に対する要望

(P.13)問4-1, 問4-1×学年別, (P.14)問4-1×問2-1(7))

「6. 利用料金の軽減」が31.8%と最も高く、次いで「1. 小学校内・学校近くでの実施」が27.7%, 「3. 施設・設備の改築, 充実」が23.2%となっています。

学年別にみると、『1年生』では「利用料金の軽減」, 『4年生』では「小学校内・学校近くでの実施」, 『6年生』では「施設・設備の改築, 充実」の割合が最も高くなっています。

利用頻度別にみると、『毎日』『2～3日』では「利用料金の軽減」, 『4日』『1日のみ』では「小学校内・学校近くでの実施」の割合が最も高くなっています。

イ 京都市の学童クラブ事業を利用していない理由 (P.14)問4-2)

「9. 利用する必要がない」が63.3%と最も高く、次いで「10. その他」が11.5%, 「1. 実施場所が遠い(学校内でない等)」が7.1%となっています。

ウ 京都市の学童クラブ事業を退会した理由 (P.15)問4-3, 問4-3×学年別)

「7. お子さまが希望したため」が46.5%と最も高く、次いで「3. お子さまだけでも過ごすことができるため」が45.1%, 「2. 習い事などで学童クラブ事業に通う時間が少なくなったため」が28.1%となっています。

学年別にみると、『1年生』『4年生』では「お子さまが希望したため」, 『6年生』では「お子さまだけでも過ごすことができるため」の割合が最も高くなっています。

(3) 放課後まなび教室について

ア 利用している（または利用予定の）放課後まなび教室に対する要望

(P.16)問5-1, 問5-1×学年別, (P.17)問5-1×問2-1 (7), (P.18)問5-1×問2-1 (8)

「2. 長期休業中の実施など、実施日の充実」が38.2%と最も高く、次いで「9. 特に要望はない／わからない」が29.2%、「1. 平日の活動時間の延長」が23.5%となっています。

学年別にみると、『1年生』『4年生』では「長期休業中の実施など、実施日の充実」, 『6年生』では「特に要望はない／わからない」の割合が最も高くなっています。

放課後まなび教室の利用頻度別にみると、すべての区分で「長期休業中の実施など、実施日の充実」の割合が最も高くなっています。学童クラブ事業の利用頻度別にみても同様です。

イ 放課後まなび教室を利用していない（または利用予定がない）理由

(P.19)問5-2, (P.20)問5-2×問2-1 (7)

「9. 利用する必要がない」が49.2%と最も高く、次いで「1. 利用したい日程や時間帯が合わない」が23.0%、「10. その他」が22.9%となっています。

京都市の学童クラブ事業の利用頻度別にみると、『毎日』『1日』『利用していない』では「利用する必要がない」, 『4日』『2～3日』では「利用したい日程や時間帯が合わない」の割合が最も高くなっています。

(4) 京都市の学童クラブ事業と放課後まなび教室について

ア 両方利用している理由 (P.21)問6-1)

「4. 放課後の学習習慣を身に付けさせたいため」が56.3%と最も高く、次いで「1. 両方を利用しやすい環境, 制度が整っているため」が29.9%、「3. 両方の活動を通じて交友関係の幅を広げたいため」が20.8%となっています。

イ 両方利用することにあたっての要望 (P.21)問6-2, (P.22)問6-2×学年別)

「5. 特に要望はない／わからない」が34.2%と最も高く、次いで「1. 両方を利用しやすくする環境, 制度の整備」が33.9%、「3. 放課後まなび教室の実施日数の充実」が28.3%となっています。

学年別にみると、『1年生』では「両方を利用しやすくする環境, 制度の整備」, 『4年生』『6年生』では「特に要望はない／わからない」の割合が最も高くなっています。

(5) 児童館（学童クラブ事業以外での利用）について

ア 児童館活動（学童クラブ事業以外）の認知度 (P.23)問7-1)

「2. 知っているが利用したことはない」が40.2%と最も高く、次いで「1. 利用している／したことがある」が24.5%、「3. 知らなかった」が21.1%となっています。

イ 児童館（学童クラブ事業以外）を利用している理由

(P.23)問7-2, (P.24)問7-2×学年別)

利用している, 利用したことがある理由については、「7. その他」が29.0%

と最も高く、次いで「2. 児童館でのクラブ活動に参加している」が22.5%、「3. 児童館での地域交流等を通じ、人間関係を広げたい」が17.3%となっています

学年別にみると、『1年生』では「児童館でのクラブ活動に参加している」、『4年生』『6年生』では「その他」の割合が最も高くなっています。

ウ 児童館（学童クラブ事業以外）を利用していない理由（P.25問7-3）

「2. 利用する必要がない」が42.9%と最も高く、次いで「1. 学童クラブ事業以外の活動を知らなかった」が16.5%、「4. 児童館が家の近くにない・どこにあるかわからない」が16.0%となっています。

(6) 放課後等デイサービスについて

ア 現在通っている放課後等デイサービス事業所を選んだ理由

(P.26問8-1, P.27問8-1×問1-2, P.28問8-1×問1-3, P.29問8-1×問2-1 (12))

「4. 事業所の理念や療育内容が気に入った」が47.8%と最も高く、次いで「11. 事業所が責任を持って送迎を行っている」が42.3%、「6. 事業所から保護者への情報提供や対応が丁寧である」が33.9%となっています。

家族の在宅状況別にみると、『父、母のどちらかは家にいる』では、「事業所の理念や療育内容が気に入った」、『祖父母のどちらかは家にいる』『誰もいない』では「事業所が責任を持って送迎を行っている」、『その他』では「事業所から保護者への情報提供や対応が丁寧である」の割合が最も高くなっています。

保護者の就労状況別にみると、『パートで就労している』『その他』では「事業所が責任を持って送迎を行っている」、それ以外では「事業所の理念や療育内容が気に入った」の割合が最も高くなっています。

また、放課後等デイサービスの利用頻度別にみると、『毎日』『4日』では「事業所が責任を持って送迎を行っている」、『2～3日』『1日のみ』では「事業所の理念や療育内容が気に入った」の割合が最も高くなっています。

イ 現在通っている放課後等デイサービス事業所に対する要望

(P.30問8-2, P.31問8-2×問1-3, P.32問8-2×問2-1 (12))

「4. 療育内容の充実」が28.8%と最も高く、次いで「9. 機能訓練ができる職員（理学療法士や作業療法士等）の配置」が24.5%、「12. 特に要望はない／わからない」が20.8%となっています。

保護者の就労状況別にみると、『常勤（フルタイム）で就労している』『パートで就労している』では「療育内容の充実」、『就労していない』では「特に要望はない／わからない」、『就労したいができない』では「送迎サービスの実施」の割合が最も高くなっています。

利用頻度別にみると、『毎日』では「利用時間の延長」、『4日』では「機能訓練ができる職員（理学療法士や作業療法士等）の配置」、『2～3日』では「療育内容の充実」及び「機能訓練ができる職員（理学療法士や作業療法士等）の配置」、『1日のみ』では「療育内容の充実」の割合が最も高くなっています。

京都市放課後の過ごし方に関する調査（総合支援学校）について

1 調査概要

(1) 目的

児童・生徒の放課後の過ごし方の状況や放課後に利用されている事業へのご意見等をうかがい、今後の京都市の放課後施策の充実に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 実施状況

	調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率
京都市放課後の過ごし方に関する調査（総合支援学校）	1,133 件	475 件	41.9%

2 主な調査項目

(1) お子さまと保護者の方の現在の状況について

- ア お子さまが通っている学校区分
- イ 同居している家族，行政区
- ウ 保護者の就労状況
- エ お子さまの障害者手帳の所持状況
- オ 子どもの医療的ケア

(2) お子さまの放課後の過ごし方について

- ア 平日の放課後の過ごし方
- イ 習い事や塾
- ウ 放課後等デイサービス
- エ 訪問看護
- オ 学童クラブ等

(3) お子さまの習い事や塾について

- ア 習い事や塾に通わせている理由

(4) 放課後等デイサービスについて

- ア 現在通っている事業所を選んだ理由
- イ 利用している放課後等デイサービスの満足度
- ウ 現在通っている事業所に対する要望
- エ 放課後等デイサービスを利用していない方の利用希望

3 主な調査結果（案）

※ 以下のページ番号は、全て参考資料 2 の京都市放課後の過ごし方に関する調査（総合支援学校）のページ番号を指す。

(1) お子さまと保護者の方の現在の状況について

ア お子さまが通っている学校区分 (P2)

「3. 高等部」が 53.9% と最も高く、次いで「1. 小学部」が 25.3%，「2. 中学部」が 17.5% となっています。

イ 同居している家族，行政区 (P2 問 1， P3 問 2)

「2. 母」が 94.9% と最も高く、次いで「1. 父」が 80.8%，「5. 兄」が 22.7% となっています。兄弟姉妹の人数は、すべての項目で「1. 1人」が

最も高くなっています。

住んでいる行政区では、「13. 伏見区（深草・醍醐地区を除く）」が13.5%と最も高く、次いで「9. 右京区（京北地域を除く）」が10.3%、「1. 北区」が9.9%となっています。

ウ 保護者の就労状況 (P3)問3)

「1. 常勤（フルタイム）で就労している」が60.4%と最も高く、次いで「2. パートで就労している」が36.4%、「3. 就労していない」が19.4%となっています。

エ お子さまの障害者手帳の所持状況 (P4)問4, (P5)問4×問6)

「4. 療育手帳（A）」が54.1%と最も高く、次いで「5. 療育手帳（B）」が38.3%、「1. 身体障害者手帳1級」が18.5%となっています。「手帳を持っていない」は0.0%となっており、「不明・無回答」を除くすべての児童が何らかの障害者手帳を所持しています。

訪問看護の利用頻度を手帳所持状況別で見ると、『毎日』『2～3日』では「身体障害者手帳1級」、『1日のみ』『利用していない』では「療育手帳（A）」の割合が最も高くなっています。

オ 子どもの医療的ケア (P6)問5-1, (P7)問5-1×問6, 問5-2)

「1. 医療的なケアは受けていない」が71.6%と最も高く、次いで「6. たん吸引」が6.3%、「8. 経管栄養（胃ろう）」が4.2%となっています。

訪問看護の利用頻度別で見ると、『毎日』では「酸素療法」「たん吸引」、『2～3日』では「たん吸引」、『1日のみ』では「たん吸引」「経管栄養（胃ろう）」、『利用していない』では「医療的なケアは受けていない」の割合が高くなっています。

保護者が現在の生活で不安に思っていることや、必要だと思うことについては、全49件の自由記述回答のうち、主な内容として「通所可能な放課後等デイサービスが少ない」、「サービス利用が制限される」等の福祉サービスの利用制限に関することが14件、レスパイトの不足に関することが6件、保護者の介護負担に関することが4件、「スクールバスでの送迎」や「学校での医療行為の制限」等、学校での支援に関することが2件挙げられています。

(2) お子さまの放課後の過ごし方について

ア 平日の放課後の過ごし方 (P.8)問6, (P.9)問6(1)自宅×学校区分別, 問1同居家族別)

『1. 毎日』は、「(1) 自宅」が36.4%と最も高く、次いで「(12) 放課後等デイサービス」が20.0%となっています。『2. 2～3日』は、「(1) 自宅」が21.5%と最も高く、次いで「(12) 放課後等デイサービス」が19.8%、「(5) 学校内の部活動、校庭開放」が16.2%となっています。

「(1) 自宅」を学校区分別で見ると、学校区分が上がるほど、「1. 毎日」の割合が高くなる傾向がみられます。

「(1) 自宅」を同居家族別で見ると、『弟』を除くすべての区分で「1. 毎日」の割合が最も高くなっており、特に『祖父』『祖母』では他の区分と比べて高くなっています。

(P.10)問6(4)×(12), 問6(5)×(12), (P.11)問6(6)×(12), 問6(7)×(12))

祖父母宅や保護者の友人・知人宅を放課後等デイサービス利用頻度別で見ると、両方利用している方では、それぞれ「1日のみ」利用している割合が高くなっています。

また、学校内の部活動、校庭開放を放課後等デイサービス利用頻度別で見ると

と、両方利用している方では、それぞれ「2～3日」ずつ利用している割合が高くなっています。放課後等デイサービスの利用頻度が上るほど、学校内の部活動、校庭開放の利用頻度が下がる傾向にあります。

京都市の学童クラブ事業を放課後等デイサービスの利用頻度別で見ると、利用頻度に関わらずすべての区分で「利用していない」の割合が最も高くなっています。

習い事や塾を放課後等デイサービス利用頻度別で見ると、両方利用している方ではそれぞれ「1日のみ」利用している割合が高くなっています。

(P.18)問8-1, 問8-1×学校区分別, (P.19)問8-2, 問8-2×問6(2))

自宅や預け先のお宅で誰と過ごしているかについては、「1. 保護者等(父・母・祖父母)が家にいて見守りながら過ごしている」が71.8%と最も高く、次いで「3. 一人で過ごしている」が23.1%、「2. きょうだいや友人, 保護者以外の大人と過ごしている」が14.6%となっています。学校区分別で見ても、すべての区分で「保護者等(父・母・祖父母)が家にいて見守りながら過ごしている」の割合が最も高くなっていますが、『高等部』では「一人で過ごしている」の割合が他の区分と比べて高くなっています。

公園等の屋外で過ごしている場合は、「1. 保護者等(父・母・祖父母)が見守りながら過ごしている」が46.2%と最も高く、次いで「2. きょうだいや友人, 保護者以外の大人と過ごしている」が23.1%、「4. その他」が19.2%となっています。公園等の屋外の利用頻度が低くなるほど、「1. 保護者等(父・母・祖父母)が見守りながら過ごしている」の割合が高くなる傾向がみられます。

イ 習い事や塾 (P.10)問6(6) 習い事や塾×学校区分別)

学校区分が上がるほど、「1日」以上利用している割合が高くなっています。

ウ 放課後等デイサービス (P.12)問6(12)×学校区分別, 同居家族別, (P.13)行政区別, (P.14)保護者の就労状況別, 所持手帳別, (P.15)医療的ケアの内容別, (P.16)移動支援の利用頻度別)

学校区分別で見ると、『小学部』では「3. 2～3日」, 『中学部』では「1. 毎日」, 『高等部』では「5. 利用していない」の割合が最も高くなっています。学校区分が上がるほど利用割合が低くなっており、高等部の利用割合は小学部の半分以下となっています。

また、同居家族別に見ると、『兄』『弟』を除くすべての区分で「5. 利用していない」の割合が最も高くなっています。

行政区別で見ると、『上京区』『伏見区』を除くすべての区分で「5. 利用していない」の割合が最も高くなっています。『上京区』では「3. 2～3日」, 『伏見区(深草・醍醐地区を除く)』『伏見区(深草地区)』では「1. 毎日」, 『伏見区(醍醐地区)』では「3. 2～3日」「5. 利用していない」の割合が高くなっています。

保護者の就労状況別で見ると、『常勤(フルタイム)で就労している』『パートで就労している』では、「1. 毎日」の割合が他の区分と比べて高くなっています。

所持手帳別で見ると、『身体障害者手帳1級・2級』『重症心身障害児認定を受けている』では「3. 2～3日」, 『身体障害者手帳3級～7級』では「2. 4日」, 『4. 療育手帳(A)』では「1. 毎日」, それ以外では「5. 利用

していない」の割合が最も高くなっています。

医療的ケアの内容別で見ると、『たん吸引』『ネブライザー等による薬液吸入』『経管栄養（胃ろう）』『中心静脈栄養』『ストマ管理』では「2～3日」、『経管栄養（経鼻）』では「2～3日」「利用していない」、それ以外では「利用していない」の割合が最も高くなっています。

移動支援の利用頻度別で見ると、『毎日』では「3. 2～3日」「5. 利用していない」、『利用していない』では「5. 利用していない」、それ以外では「3. 2～3日」の割合が高くなっています。

エ 訪問看護 (P.16)問6(15)×問5-1)

医療的ケアの内容別で見ると、『医療的なケアは受けていない』『たん吸引』『その他』では「利用していない」、『人工呼吸器管理』『酸素療法』『気管切開部の管理』『経管栄養（経鼻）』では「2～3日」、『ネブライザー等による薬液吸入』では「2～3日」「利用していない」、『経管栄養（胃ろう）』では「2～3日」「1日のみ」「利用していない」、『導尿』では「毎日」「2～3日」の割合が高くなっています。

オ 学童クラブ等 (P.8)問6, (P.17)問7, (P.17)問7×問6(7))

学童クラブ等を「1日」以上利用している児童は2.0%となっており、利用している理由では、「1. 保護者が就労している時間の居場所確保のため」が61.9%と最も高く、次いで「2. 様々な経験をさせるため」が52.4%、「3. お子さまの人間関係を広げるため」が47.6%となっています。利用頻度別の理由を見ると、『2～3日』『利用していない』では「保護者が就労している時間の居場所確保のため」、『1日のみ』では「お子さまの人間関係を広げるため」の割合が高くなっています。

(3) お子さまの習い事や塾について

ア 習い事や塾に通わせている理由 (P.20)問9)

「4. 様々な経験をさせるため」が45.2%と最も高く、次いで「2. 運動能力向上, 体力づくりのため」が34.2%、「3. 豊かな感性や技術等を身に付けさせるため」が30.1%となっています。

(4) 放課後等デイサービスについて

ア 現在通っている事業所を選んだ理由 (P.20)問10-1×問6(12), (P.21)問10-1, (P.22)問10-1×問3, (P.23)問10-1×問5-1)

「4. 事業所の理念や療育内容が気に入った」が46.7%と最も高く、次いで「11. 事業所が責任を持って送迎を行っている」が37.9%、「6. 事業所から保護者への情報提供や対応が丁寧である」が34.9%となっています。

保護者の就労状況別で見ると、『その他』を除き、『就労したいができない』では「家から近く, 通いやすい」、それ以外では「事業所の理念や療育内容が気に入った」の割合が最も高くなっています。

医療的ケアの内容別で見ると、『その他』を除き、『医療的なケアは受けていない』では「事業所の理念や療育内容が気に入った」、それ以外では「医療的なケアに対応可能な職員がいる」の割合が最も高くなっています。

放課後等デイサービスの利用頻度別で見ると、『1日のみ』では「事業所から保護者への情報提供や対応が丁寧である」、それ以外では「事業所の理念や療育内容が気に入った」の割合が最も高くなっています。放課後等デイサービスの利用頻度が高いほど、「休日の営業等, 利用時間が希望に合っている」の

割合が高くなっています。

イ 利用している放課後等デイサービスの満足度 (P.24問10-2, P.25問10-2×問10-1)

『満足(「1. 大変満足している」と「2. 満足している」の合計)』は88.3%, 『不満(「3. やや不満がある」と「4. 大変不満がある」の合計)』は10.6%となっています。

現在通っている事業所を選んだ理由別で見ると、『職員体制が充実している』では「大変満足している」、それ以外では「満足している」の割合が最も高くなっています。

ウ 現在通っている事業所に対する要望 (P.26問10-3, P.27問10-3, P.28問10-3, P.29問10-3×問6(12), P.30問10-3×問10-2)

「2. 土日・祝日の実施」が24.6%と最も高く、次いで「1. 利用時間の延長」が24.3%, 「4. 療育内容の充実」が21.3%となっています。

学校区分別で見ると、『小学部』では「機能訓練ができる職員の配置」, 『中学部』では「土日・祝日の実施」, 『高等部』では「特に要望はない/わからない」の割合が最も高くなっています。

保護者の就労状況別で見ると、『常勤(フルタイム)で就労している』『パートで就労している』では「利用時間の延長」「土日・祝日の実施」, 『就労していない』では「療育内容の充実」, 『就労したいができない』では「職員の質の向上」の割合が高くなっています。

放課後等デイサービスの利用頻度別で見ると、『毎日』では「土日・祝日の実施」, 『4日』では「療育内容の充実」, 『2~3日』では「機能訓練ができる職員の配置」, 『1日のみ』では「利用時間の延長」の割合が最も高くなっています。

サービスの満足度別で見ると、『大変満足している』では「土日・祝日の実施」, 『満足している』では「利用時間の延長」「療育内容の充実」, 『やや不満がある』では「職員の質の向上」の割合が高くなっています。

エ 放課後等デイサービスを利用していない方の利用希望 (P.30問10-4, 問10-4×学校区分別, P.31問10-4×問5-1, P.32問10-5)

「2. 利用希望はない」が59.8%, 「1. 利用希望がある」が24.4%となっています。

学校区分別に見ると、学校区分が上がるほど、「1. 利用希望がある」の割合が低くなる傾向がみられます。

医療的ケアの内容別で見ると、『医療的なケアは受けていない』『その他』では「利用希望はない」, それ以外では「利用希望がある」の割合が高くなっています。

また、利用希望があるが現在放課後等デイサービスを利用していない理由では、「8. その他」が47.5%と最も高く、次いで「7. 事業所の質(療育内容・職員のスキル等)に不安がある」が32.5%, 「2. 通いたいと思える放課後等デイサービスがなかった」が27.5%となっています。

その他の内容としては、本人の希望(7件), 本人の体力面や状態(6件), 支援の内容や質(5件)などが挙げられています。



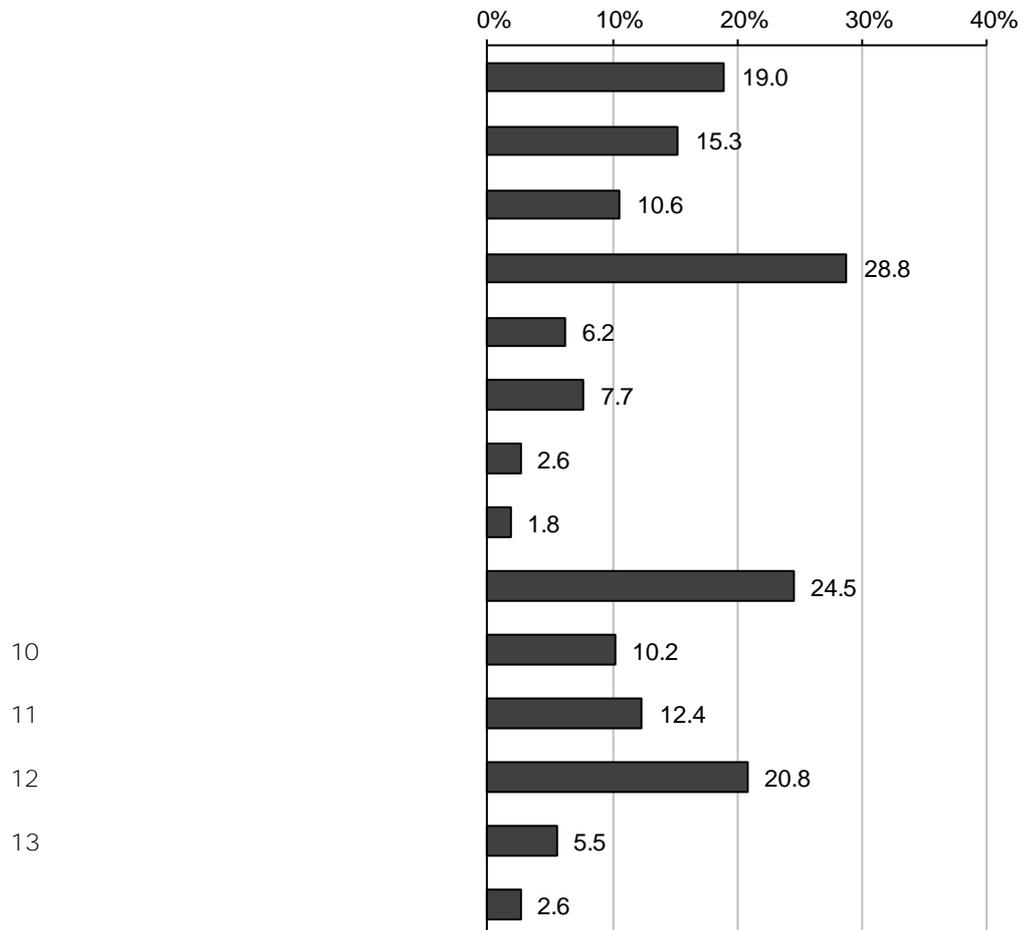
京都市
放課後の過ごし方に関する調査
(小学校用)
【結果報告書 (速報)】

目 次

.....	1
.....	1
.....	1
.....	1
.....	1
.....	2
.....	2
.....	13
.....	16
.....	21
.....	23
.....	26

「4. 療育内容の充実」が28.8%と最も高く、次いで「9. 機能訓練ができる職員（理学療法士や作業療法士等）の配置」が24.5%、「12. 特に要望はない／わからない」が20.8%となっています。

HN=274H



!) b "[P"U w b"T"P"V, 1 •!• | V ^ ž !*

『常勤（フルタイム）で就労している』『パートで就労している』では「療育内容の充実」、『就労していない』では「特に要望はない／わからない」、『就労したいができない』では「送迎サービスの実施」の割合が最も高くなっています。

F.F. V •>æ ó X F.F. W •>æH		œ0£	<#Ý iëFp 6x	u ¥G%&f ¥F (0¿G%0¿ Fp ~	\$ª*ñ /E Fp ~	- 0£#iFp ~	-1ª*...G Fp 8 Fú4)!G -0b 0[fG Fp N @ Fú P Â	ó ² P'ÇG / #Ô P'ÇFp ~	
z>ì>ì /		274 100.0	52 19.0	42 15.3	29 10.6	79 28.8	17 6.2	21 7.7	7 2.6	
- 1ª *... Fp u , "g # 9	- ÁH GcGyGMG2G u ›FçFöFÔG	199 100.0	45 22.6	29 14.6	21 10.6	60 30.2	13 6.5	14 7.0	3 1.5	
	G_GŠGVF÷ u ›FçFö G	122 100.0	16 13.1	17 13.9	11 9.0	37 30.3	8 6.6	11 9.0	1 0.8	
	u ›FçFöFÔFúFÔ	43 100.0	11 25.6	8 18.6	5 11.6	7 16.3	1 2.3	2 4.7	1 2.3	
	u ›FçFíFÔFÜF÷FÝF FÔ	26 100.0	7 26.9	2 7.7	4 15.4	5 19.2	1 3.8	2 7.7	2 7.7	
	FíFp Ú	22 100.0	1 4.5	0 0.0	2 9.1	8 36.4	3 13.6	3 13.6	1 4.5	
	F.F. V •>æ ó X F.F. W •>æH		œ0£	\$ª\$×G?G0F •+ Fú*É (Fp Q (μ+ 0«)ŽFÜF÷ FÝG *É (H #. Ú\$ª 2 ^G 8 \$ª 2 ^%H Fp4Ä*(3æ3ÄGCGŠG Fp (*É (Fp2AFp ¥ V	"IFú0[fFýFú FÔH G FÜG F FÔ	FíFp Ú	Y ÂG%o!" G'Ä
z>ì>ì /		274 100.0	5 1.8	67 24.5	28 10.2	34 12.4	57 20.8	15 5.5	7 2.6	
- 1ª *... Fp u , "g # 9	- ÁH GcGyGMG2G u ›FçFöFÔG	199 100.0	5 2.5	51 25.6	17 8.5	24 12.1	38 19.1	13 6.5	5 2.5	
	G_GŠGVF÷ u ›FçFö G	122 100.0	1 0.8	31 25.4	11 9.0	16 13.1	30 24.6	11 9.0	2 1.6	
	u ›FçFöFÔFúFÔ	43 100.0	0 0.0	10 23.3	2 4.7	4 9.3	13 30.2	2 4.7	0 0.0	
	u ›FçFíFÔFÜF÷FÝF FÔ	26 100.0	1 3.8	2 7.7	8 30.8	1 3.8	4 15.4	0 0.0	1 3.8	
	FíFp Ú	22 100.0	0 0.0	8 36.4	3 13.6	3 13.6	3 13.6	3 13.6	0 0.0	2 9.1

!) b "[P"U w b"U"P"T"K12"L í â , !íÉ!Û" !ùß !• Á G !*

『毎日』では「利用時間の延長」, 『4日』では「機能訓練ができる職員（理学療法士や作業療法士等）の配置」, 『2～3日』では「療育内容の充実」及び「機能訓練ができる職員（理学療法士や作業療法士等）の配置」, 『1日のみ』では「療育内容の充実」の割合が最も高くなっています。

F.F. V •>æ ó X F.F. W •>æH		œ0£	<#Ý i6èFp 6x	u ¥G%&f ¥F κ	κ0¿G%0¿ Fp ~	\$*ñ /E Fp ~ -	- 0£#iFp ~ -	-1π*...G Fp 8 Fú4)!G -0b 0[fG Fp N @ Fú P Á	ó ² P'ÇG / #Ö P'ÇFp ~
z>ì>ì /		274 100.0	52 19.0	42 15.3	29 10.6	79 28.8	17 6.2	21 7.7	7 2.6
: GG" Fp κ < '¼ #ÝGU 8-G2 ØGC 9 TN Ga	- ¥	48 100.0	15 31.3	8 16.7	7 14.6	13 27.1	1 2.1	1 2.1	1 2.1
	H ¥	33 100.0	2 6.1	5 15.2	5 15.2	8 24.2	2 6.1	5 15.2	1 3.0
	H HZH ¥	109 100.0	21 19.3	23 21.1	7 6.4	31 28.4	8 7.3	8 7.3	4 3.7
	H ¥FpG	84 100.0	14 16.7	6 7.1	10 11.9	27 32.1	6 7.1	7 8.3	1 1.2
F.F. V •>æ ó X F.F. W •>æH		œ0£	\$*xG?G0F •+ Fú*É (Fp Q (μ+ 0«)ŽFÜF: FÝG *É (H #. Ú\$² °G 8 \$² °¼H Fp4Ä*(3æ3ÁGCGŠG Fp κ	*É (Fp2AFp ¥ V	"IFü0[fFyFú FÖH G FÜG F Fifp Ú FÖ	Y ÁG%!" G'Ä	
z>ì>ì /		274 100.0	5 1.8	67 24.5	28 10.2	34 12.4	57 20.8	15 5.5	7 2.6
: GG" Fp κ < '¼ #ÝGU 8-G2 ØGC 9 TN Ga	- ¥	48 100.0	0 0.0	12 25.0	2 4.2	6 12.5	10 20.8	3 6.3	1 2.1
	H ¥	33 100.0	2 6.1	9 27.3	2 6.1	5 15.2	6 18.2	2 6.1	2 6.1
	H HZH ¥	109 100.0	1 0.9	31 28.4	11 10.1	12 11.0	22 20.2	4 3.7	3 2.8
	H ¥FpG	84 100.0	2 2.4	15 17.9	13 15.5	11 13.1	19 22.6	6 7.1	1 1.2